

## 2022年度助成分

## ■研究課題名

## ポストコロナ社会における経済政策：学際的な視点から

研究代表者：

宮崎智視 (神戸大学大学院経済学研究科・教授)

招聘研究者：

Roger Congleton (West Virginia University・BB&amp;T Professor of Economics)

実施期間：2022年11月14日～2022年11月21日

## 【研究の概要】

招聘者である Roger Congleton 教授は、神戸大学における招聘期間に、日本経済政策学会国際会議と神戸大学経済学研究科の研究集会である六甲フォーラムに参加・報告をされた。

まず、六甲フォーラムでは、「Solving Social Dilemmas」というタイトルで、同教授が昨今出版されたご著書の内容についてご講演頂いた。学内の他、日本経済政策学会の関係者も参加し、研究面だけではなく、政策的な側面についても闊達な議論が交わされた。

次に、日本経済政策学会国際会議では、「Toward a Multi-Disciplinary Policy Analysis Grounded in Methodological Individualism」というタイトルで、基調講演を行なって頂いた。今回の学会のテーマが「Interdisciplinarity of Economic Policy Studies (経済政策の学際性)」であることも踏まえ、合理的選択理論に基づいた学際的な研究の方向性に対して示唆を与え得る内容でご講演を頂いた。特に work ethic (職業道徳、勤労倫理) に着目し、講演の冒頭では、World Value Survey に基づいた国際比較を提示された。次に、通常の余暇・消費選択のモデルに work ethic を導入した理論モデルを提示し、政府のサポートとの関係を分析した結果を示された。最後の実証分析については、政府のサポートと work ethic との関係は国によって異なるとの結果が提示された。

テレワークの進展に伴い、人々の働き方の形態はより多様になっている。また、昨今は賃上げの必要性や労働者の待遇の改善が求められている。以上を踏まえると、ポストコロナ社会においては、work ethic に対する研究が強く必要とされよう。尤も work ethic について深く研究するためには、経済学にとどまらず、倫理学や社会学、場合によっては医学なども含めた他分野の研究者との協調も不可欠であろう。Congleton 教授の講演は、ポストコロナ社会における学際的な経済政策研究の端緒となるものと評価されよう。